

食品安全基本法第24条第1項第1号に基づく食品健康影響 評価について

令和7年10月
消費者庁食品衛生基準審査課

農薬、飼料添加物及び動物用医薬品（以下「農薬等」という。）の食品中の残留基準については、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第13条第1項の規定に基づいて、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）において定められている。今般、以下の農薬等の残留基準の設定に当たって、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

評価を依頼する農薬等の概要は、別添1のとおりである。また、評価依頼が2回目以降である農薬等について、前回評価依頼時から追加となった各試験データは別添2のとおりである。

なお、食品安全委員会から食品健康影響評価結果を受けた後に、食品衛生基準審議会において、農薬等としての食品中の残留基準を設定等することとしている。

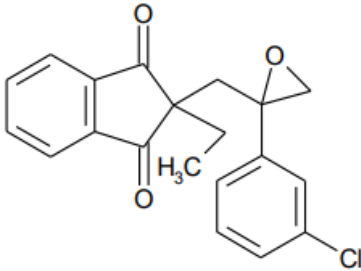
1. インダノファン（農薬）
2. トルクロホスメチル（農薬）
3. フェントラザミド（農薬）
4. フェンメゾジチアズ（農薬）
5. フロリルピコキサミド（農薬）

インダノファン

1. 今回の諮問の経緯

- ・令和7年10月2日に通知された、農林水産省からの農薬取締法に基づく再評価に伴う連絡と関係資料を受理。

2. 評価依頼物質の概要

名称	インダノファン(Indanofan)	
構造式	 <p style="text-align: center;">原体中組成 R:S=1:1</p>	
用途	除草剤	
作用機構	インダン骨格を有する除草剤である。タンパク質及び脂肪酸の生合成を阻害することで、細胞分裂・伸長を阻害し、雑草の生育を停止し枯死させると考えられている。除草活性はS体のみが存在する。	
日本における登録状況	農薬登録がなされている。 適用作物: 水稲、小麦等 使用方法: 湛水散布等	
国際機関、海外での状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	基準なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	【1】 平成19年 9月13日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成20年 1月10日 食品健康影響評価結果 受理 【2】 平成22年 1月 4日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成22年 9月 9日 食品健康影響評価結果 受理	
	ADI = 0.0035 mg/kg 体重/日	

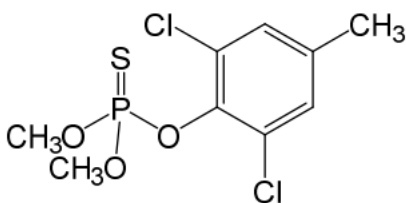
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

トルクロホスメチル

1. 今回の諮問の経緯

- ・令和7年10月2日に通知された、農林水産省からの「農薬取締法に基づく再評価」に伴う連絡と関係資料を受理。

2. 評価依頼物質の概要

名称	トルクロホスメチル (Tolclofos-methyl)	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	有機リン系化合物に属する殺菌剤である。細胞の運動機能や細胞分裂の制御機構に作用することで殺菌効果を示すと考えられている。	
日本における登録状況	農薬登録がなされている。 適用作物: ばれいしょ、にんじん等 使用方法: 散布等	
国際機関、海外での状況	JMPR	ADI = 0.07 mg/kg 体重/日 (2019) ARfD = 設定の必要なし (2019)
	国際基準	ばれいしょ、レタス等
	諸外国	EU: ばれいしょ、レタス等 豪州: ばれいしょ、レタス等 米国、カナダ、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	【1】 平成24年 8月21日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成30年11月21日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 令和元年 5月28日 食品健康影響評価結果 受理 令和元年10月28日 食品健康影響評価結果 受理 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ADI = 0.064 mg/kg 体重/日</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ARfD = 0.13 mg/kg 体重</div>	

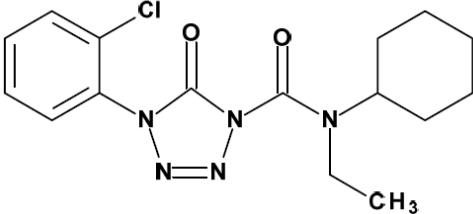
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

フェントラザミド

1. 今回の諮問の経緯

- ・令和7年10月2日に通知された、農林水産省からの「農薬取締法に基づく再評価」に伴う連絡と関係資料を受理。

2. 評価依頼物質の概要

名称	フェントラザミド (Fentrazamide)	
構造式		
用途	除草剤	
作用機構	作用機構は明らかでないが、植物の細胞分裂組織に作用し、細胞分裂及び伸長を阻害して雑草の生育を停止させると考えられている。	
日本における登録状況	農薬登録がなされている。 適用作物: 水稲 使用方法: 湛水散布等	
国際機関、海外での状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	基準なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	【1】平成15年 7月 1日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成15年 9月18日 食品健康影響評価結果 受理 【2】平成20年 2月 5日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成20年12月 4日 食品健康影響評価結果 受理	
	ADI = 0.0052 mg/kg 体重/日	

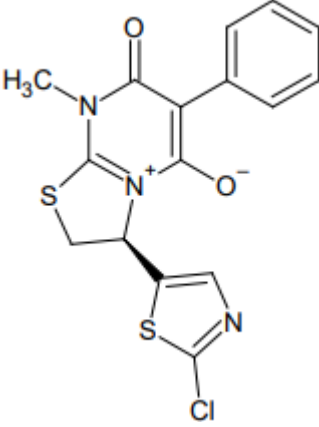
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

フェンメゾジチアズ

1. 今回の諮問の経緯

- ・令和7年 10 月 15 日に通知された、農林水産省からの農薬取締法に基づく新規登録申請に伴う基準値設定及び畜産物の基準値設定の要請を受理。

2. 評価依頼物質の概要

名称	フェンメゾジチアズ (Fenmezoditiaz)	
構造式		
用途	殺虫剤	
作用機構	メソイオン系の殺虫剤である。ニコチン作動性アセチルコリン受容体に結合し、受容体チャネルを閉じた状態に保つことで神経細胞内へのイオン流入が抑制されるため、神経伝達が遮断され、殺虫効果を示す。	
日本における登録状況	農薬登録がなされていない。 今回、稲及び稲(箱育苗)への新規登録申請	
国際機関、海外での状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	基準なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	初回	

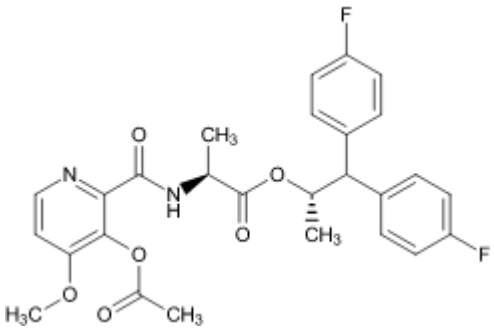
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

フロリルピコキサミド

1. 今回の諮問の経緯

- ・令和7年5月1日に通知された、農林水産省からの農薬取締法に基づく新規登録申請に伴う基準値設定の要請を受理。

2. 評価依頼物質の概要

名称	フロリルピコキサミド (Florylpicoxamid)	
構造式	 <p>The chemical structure of Florylpicoxamid is shown. It features a pyridine ring with a methoxy group (-OCH₃) at the 3-position and an acetamido group (-NHCOCH₃) at the 2-position. The pyridine ring is connected via a carbonyl group to a chiral center (C-4) which has a methyl group (-CH₃) and a hydrogen atom (-H). This chiral center is further connected to another carbonyl group, which is linked to a second chiral center (C-5) with a methyl group (-CH₃) and a hydrogen atom (-H). The second chiral center is connected to a 4-fluorophenyl group and a 3-fluorophenyl group.</p>	
用途	殺菌剤	
作用機構	ピコリナミド系の殺菌剤である。シトクロムbタンパク質のQiサイトに作用する。植物又は糸状菌の体内で脱アセチル体に代謝分解され、その分解物が殺菌活性を持つ。	
日本における登録状況	農薬登録がなされていない。 今回、てんさい、ミニトマト等への新規登録申請	
国際機関、海外での状況	JMPR	ADI = 0.1 mg/kg 体重/日 (2023) ARfD = 設定の必要なし
	国際基準	バナナ、ぶどう等
	諸外国	米国: 大麦、小麦等 カナダ: てんさい、豆類等 豪州: バナナ、ぶどう等 EU、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	初回	

JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

○評価依頼が2回目以降の品目に関する追加データリスト

【インダノファン】

・再評価に係る資料

【トルクロホスメチル】

・再評価に係る資料

【フェントラザミド】

・再評価に係る資料